

パフォーマンス評価を取り入れた 「高大接続評価システム」の提案

中央教育審議会高大接続特別部会

平成25年5月24日

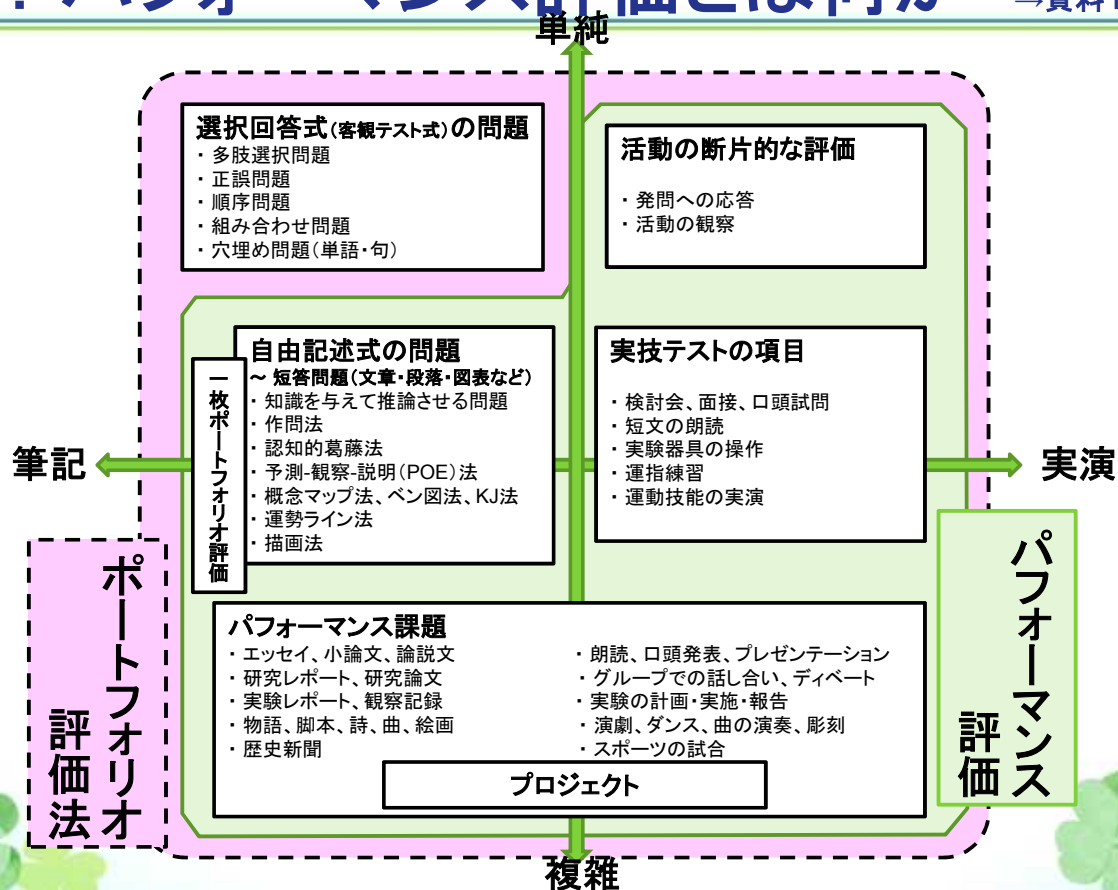
京都大学大学院教育学研究科・西岡加名恵

❀ はじめに： 自己紹介

- － 教育方法学(カリキュラム論、教育評価論)
- － パフォーマンス評価(ポートフォリオ評価法、パフォーマンス課題、ルーブリック)
- － 日本の学校の先生方と共同研究開発
- － アメリカやイギリスの調査
- － 大学では教員養成の仕事も担当(教育実習指導など)
- － 京都大学大学院教育学研究科E.FORUMの講師と運営を担当
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>
- － 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ(2009年6月～2010年3月)
- － 文部科学省教育研究開発企画評価会議協力者(2011年11月～)
- － 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会委員(2012年12月～)

1. パフォーマンス評価とは何か

→資料1



(西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年、p.9参照)

3

(1) パフォーマンス評価

- 知識やスキルを使いこなす(活用する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)

(2) パフォーマンス課題とは...

- 様々な**知識やスキルを**総合して**使いこなす(活用する)ことを求めるような、**複雑な**課題。
- 具体的には、論説文やレポート、展示物といった**完成作品(プロダクト)**や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった**実演(狭義のパフォーマンス)**を評価する課題。

4

❖ (3) 登場の背景

◆ 1980年代末から1990年代にかけてのアメリカ合衆国

- 客観テストによって、学校の説明責任を求める政策への批判
- 学力観の転換

• 「真正の評価(authentic assessment)」論

- 現実世界において人が知識や能力を試される状況を模写したりシミュレーションしたりしつつ評価することを主張するもの



「固液混合物」を純粋な物質に分け、性質を明らかにする実験を、計画・実施・報告しなさい。

(Wiggins, G., *Performance Assessment in Action*, ReLearning by Design, 2000)

5

❖ (4) 日本における実践例(その1)

- 2006年度～： 京都府立園部高等学校における「Sonobe Assessment Grid(長期的ルーブリック)」とパフォーマンス課題の研究開発 →資料2

(田中容子「『逆向き設計』で柔軟な授業作りを実現する—京都府立園部高等学校英語科における取り組み—」『教育目標・評価学会紀要』第22号、2012年)

- 2012年度～： 京都グローバルコミュニケーション校拠点校における研究開発(文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」の委託事業)

- 東舞鶴高校
- 西乙訓高校
- 山城高校
- 東宇治高校

英語科のパフォーマンス課題
(大槻裕代教諭、高校1年生)
「自分の転機となったことを振り返り、そこから得たことを、忍足さんへのメッセージとして発表してください。」

6

☘(4)日本における実践例(その2)

※中学校社会科 →資料3



(三藤あさみ先生提供。三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか——中学校社会科のカリキュラムと授業づくり』日本標準、2010年参照)

☘(5)日本の政策への導入

- 「学習指導要領解説 総合的な学習の時間」(2008年)、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(2010年3月24日)
→ポートフォリオ、パフォーマンス評価を推奨
- 中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(2008年12月24日)
→学習ポートフォリオとティーチング・ポートフォリオの導入と活用を推奨
- 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会、中央教育審議会高大接続特別部会・高等学校教育部会など

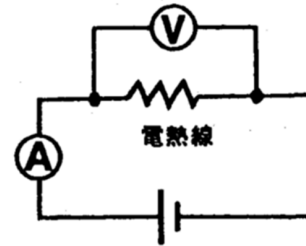
(6) 筆記テストの問題を改善することも重要

例1

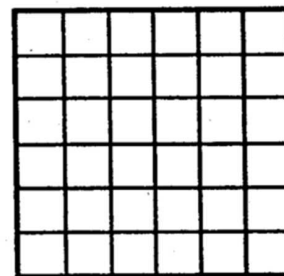
- 13 智子さんの班は、電圧と電流の関係を調べるために下の図のような回路を作りました。電源の電圧を 2.0 V から 12.0 V まで変化させて、回路に流れる電流をはかったところ、測定値が下の表のようになりました。

表

電圧 V	2.0	4.0	6.0	8.0	10.0	12.0
電流 A	0.5	1.0	1.6	—	2.4	3.0



- (1) 表の結果をもとにして、電圧と電流の関係を右のグラフ用紙に書きなさい。



(46)

(国立教育政策所教育課程研究センター『平成13年度小中学校教育課程実施状況調査 中学校理科』ぎょうせい、2003年、p.85.)

例2 イギリスGCSE 歴史の問題例

1950年より前に冷戦の緊張が増したことに對し、次の3つは等しく責任がある。

- (i) ソビエトの東ヨーロッパへの拡大
- (ii) トウルーマン・ドクトリンとマーシャル・プラン
- (iii) ベルリン封鎖

この記述に對し、あなたはどの程度、賛成しますか？ (i)(ii)(iii)のみに言及し、答えを説明してください。

(<http://www.ocr.org.uk/images/107780-question-paper-unit-a981-aspects-of-international-relations-1919-2005-short-course-.pdf>)

※学んだ知識を活用しつつ、社会的事象の間にある因果関係について考えさせる問題

2. 評価基準の開発

(1) ルーブリックとは何か (ここではレベル2・4を省略)

	原理・一般化に関する	資料活用プロセス
5	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地域などの構成要素から3つ以上の視点から分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて、非常に説得力のある主張を組み立てることができる。	複数の視点から関連づけて、非常に説得力のある論述を行うことができる。
3	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地域などの構成要素から2つ以上の視点から分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて明確な主張を述べることができる。	複数の視点から関連づけて、非常に説得力のある論述を行うことができる。
1	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地域などの構成要素から1つ以上の視点から分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて明確な主張を述べることができる。	基本的な資料の読み取りや作成に困難をきたしている。

観点

(分けなくても可)

記述語

(規準と徴候)

尺度

(数レベル程度)

(2) 特定課題ルーブリック作成用のテンプレート

レベル	作品NO	記述語
5 素晴らしい		まず、作品Noの配置を確定する。 ※アンカー作品： 各レベルで求められる質や水準を示す典型的な作品例
4 良い		
3 合格		
2 もう一歩		チェックリストとの違いに留意が必要。
1 かなり改善が必要		

🍀 (3) 特定課題ルーブリックの作り方

- ①お互いの採点がわからないように、作品を採点する。



13

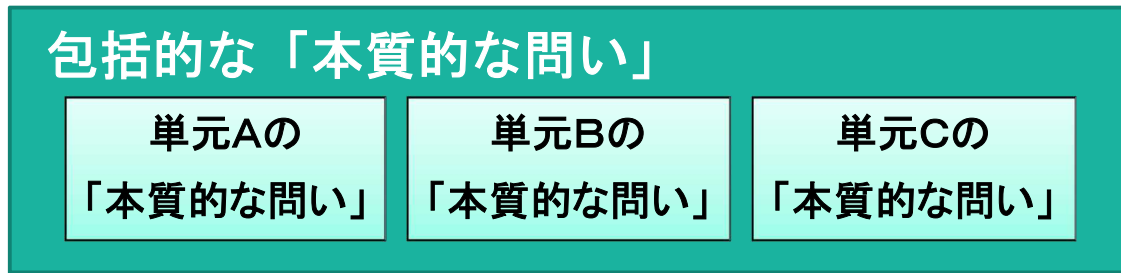
- 🍀 ②似た評点がついた作品を集め、特徴について話し合う。



14

❖(4) 長期的ループリック → 資料2の上半分、3②

「本質的な問い」の入れ子構造



パフォーマンス課題
類似的



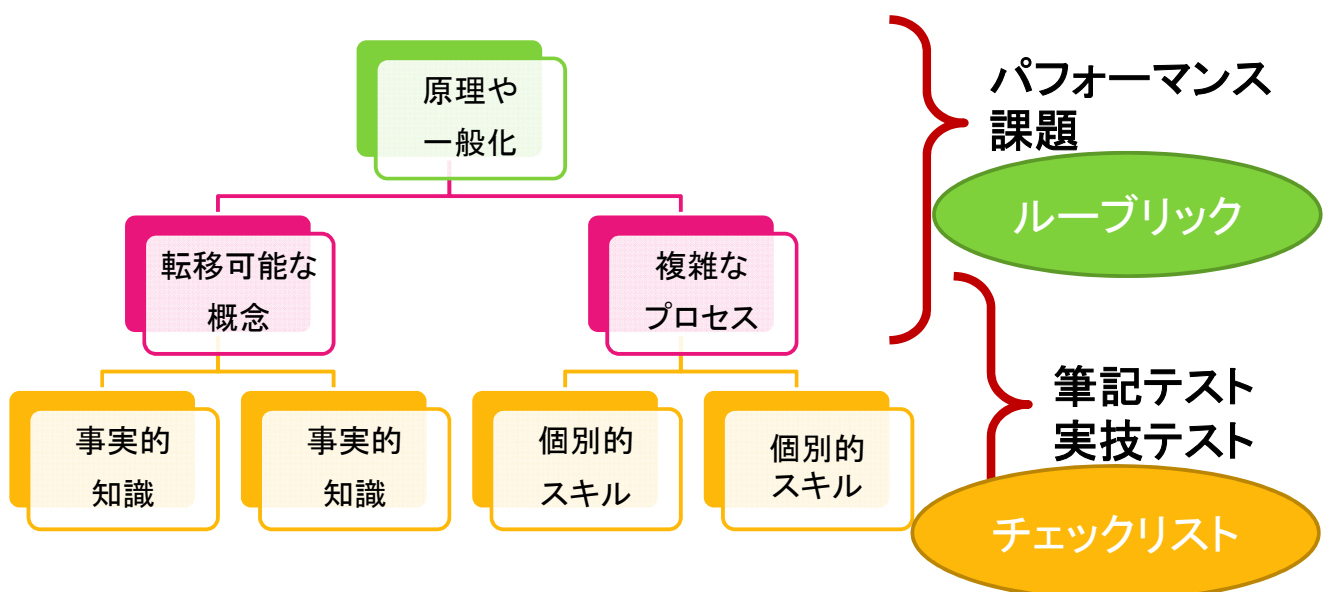
5	
4	
3	
2	
1	

長期的ループリック

単元を超えた
成長を捉える

15

❖(5) ループリックとチェックリストを併用する

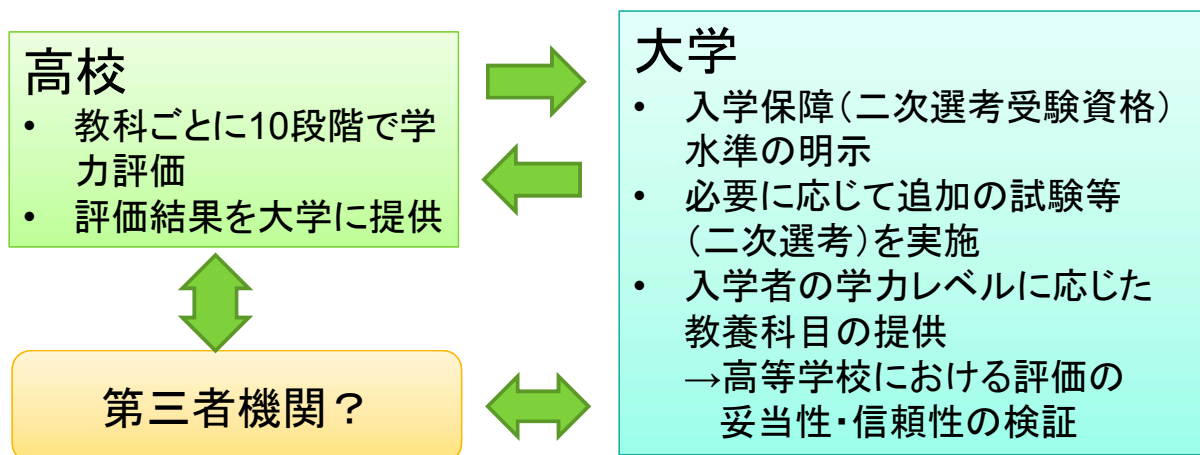


(McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65の図や、Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図 をもとに作成。G・ウィギンズ／J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらしカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年も参照)

16

3. 「高大接続評価システム」の提案

(1) 完成イメージ



※「調査書」を信頼できるものにする(センター試験は併存? 廃止?)

※序列化・選別の入試から資格型入試への転換(受験生と大学とのマッチング)

※「高大接続評価システム」と、現行の入試システムのそれぞれに定員を割り振ることで、受験の複数機会を確保することも可能

17

(2) 各教科について学力評価計画を策定:

イギリスGCSE(英語)の科目明細の例

	「文芸のテキストを読む」 統制された評価 (課題3つ)	「想像的に書く」 統制された評価 (課題2つを含む 習作1つ)	「話す、聞く」 統制された評価 (課題3つ)	「情報と観念」 試験 (筆記)	計
	約50時間	約20時間	約20時間	2時間	
	シェークスピア、散文・ノン・フィクション、詩	テキスト開発とメディア	個人の貢献、グループ活動、ドラマ活動	ノン・フィクションとメディア、書くこと	
話す・聞く			40点		40点 (20%)
読む	40点			40点	80点 (40%)
書く		40点		40点	80点 (40%)
	40点 (20%)	40点 (20%)	40点 (20%)	80点 (40%)	

(GCSE English-J350(from 2012))

<http://www.ocr.org.uk/qualifications/gcse-english-j350-from-2012/>)

18

※イギリスの科目明細の長所

- 能力目標と内容領域、評価方法の対応が明示されている。
- パフォーマンス課題と筆記テストが組み合わされて用いられている。
Cf. A-Levelでは、**2000 words**のレポートが求められる例も。
- 一つの教科に対し複数の科目明細が用意されており、学校や生徒が選択できる。→パフォーマンス課題の種類や割合を選択できる。
- 比較可能性を高める様々な工夫がある。 →資料4
- 科目と問題・課題の評価基準としてルーブリックが採用されている。
→大学ごとに、合格ラインのグレードを指定できる。
- 採点のトレーニングが教師の力量向上プログラムとしての側面も持っている。

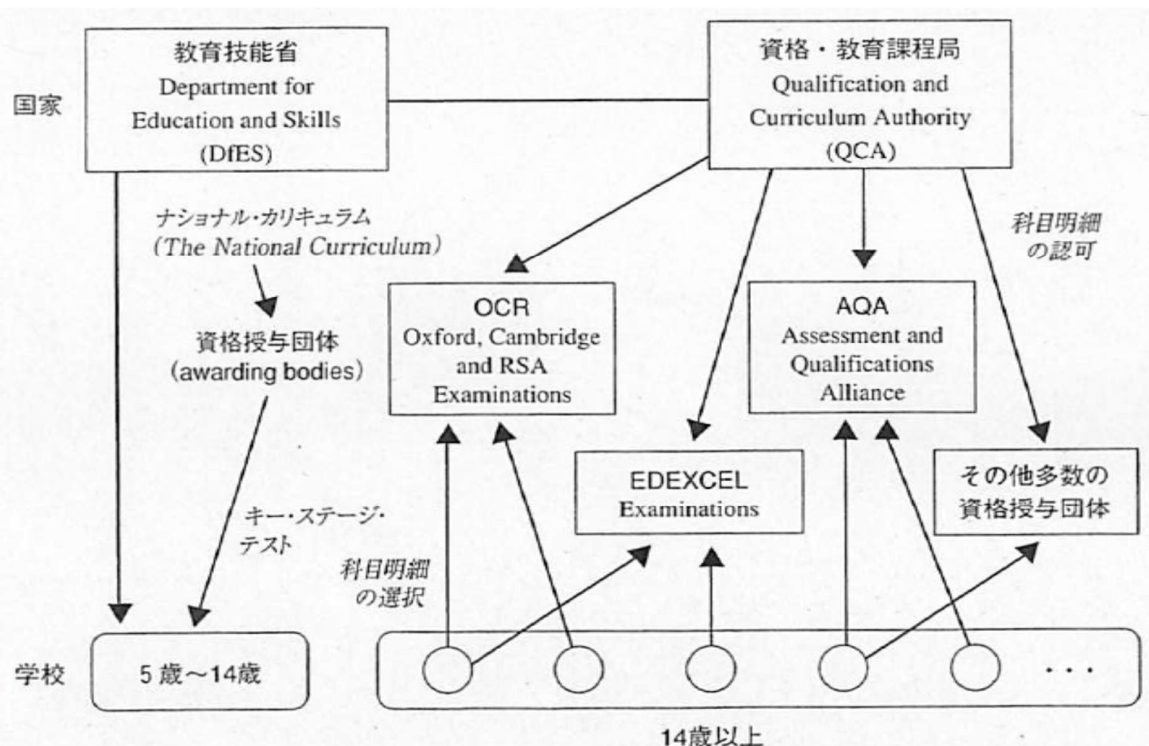
※学力評価計画を評価する視点

- カリキュラム適合性 ←妥当性
- 比較可能性 ←信頼性
- 公正性: 平等性、結果的妥当性、条件の明瞭さ、公表と承認の原則
- 実行可能性

(西岡加名恵「教育評価の方法原理」田中耕治編『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房、2005年)

19

(3) イギリスにおける資格試験のシステム



(西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年、p.208)

20